

## 消化器内視鏡外科手術バイブル

動画で学ぶハイボリュームセンターの手法

北川 雄光 ● 監修  
宮澤 光男, 竹内 裕也 ● 編

B5・頁336  
定価:13,200円(本体12,000円+税10%) 医学書院  
ISBN978-4-260-05052-4

北川雄光先生監修、宮澤光男先生、竹内裕也先生編集による本書は、わが国を代表するハイボリュームセンターにおける消化器外科内視鏡手術の実際を、数多くの手術動画とわかりやすい解説で学ぶことのできるぜひと欲する手術書である。ほぼ全ての消化器領域の手術を網羅し、エキスパートチームで培われたノウハウが惜しげもなく記載されており、どの世代の外科医にとっても、日頃の疑問に答え、より良い手術に導いてくれる、真にバイブルと呼ぶにふさわしい待望の一冊である。

ページを開いてまず驚かされるのは、動画の多さである。手術操作ごとに細かく区分され、簡潔明瞭な解説文と連動して配置されている。さすがハイボリュームセンターで練られた動画だけあって、映像の精緻さ、撮像の角度、カメラワーク、尺の長さ、いずれも申し分ない。動画を見るだけで、手術手技のコツと技術習熟の到達点をイメージすることができる。また、動画視聴だけではわからないポート配置などはイラストで具体的に表現されているため、型通りの冗長な解説が不要となり、内容の濃さは裏腹に紙面構成がすっきりしている。質の高い動画とイラストが簡潔な解説文とリンクして配置され、記載分量や紙面構成が統一されているため、とても見やすく、読みやすい。おそらくは、左手で本を開き、右手でスマホを操作して動画視聴

評者 袴田 健一

弘前大病院長/弘前大大学院教授・消化器外科学・小児外科学

しながら利用することを想定されているのであろう。読者の目線や利用法への編者の配慮が強く感じられる。

数多くの動画とわかりやすい解説で学べる手術書

もちろん、手術手技の細かい部分や使用する機器は施設により異なる。本書では、施設別、術式別に術者、助手、機器の配置とポート配置、準備する器具などの詳細が記載されている。ロボット手術についても、ポート配置や使用する鉗子がここまで詳細に書かれている教科書はこれまでにない。読者は、いながらにして全国のハイボリューム施設の手術を見学し、手術手技、手術室の人と機器の配置、さらにはチームプレーの実際を学ぶと同様の経験を積むことができる。このことは、まさに監修者、編集者の意図するところである。

コロナ禍にあって、技能向上をめざす多くの外科医はハイボリュームセンターでの手術見学の機会を希望しながらも、困難な状況が続いた。本書は、そのような外科医の渴望に呼応して、手術見学で得られる以上の解説や動画を付加した手術書を提供することで、新たなスタイルの手術研鑽法を提案したと言っても過言ではない。コロナが明けて自由な交流が実現した暁であっても、むしろ本書の手術解説書としての意義は大きくなるものと期待される。多様な利用者層に対して、多様な環境で変わらず真価を発揮できる点においても、真のバイブルである。

## PT・OT・STポケットマニュアル

国際医療福祉大学成田病院 リハビリテーションセンター ● 編  
角田 亘 ● 責任編集  
西田 裕介, 森井 和枝, 後藤 和也, 白砂 寛基, 大森 智裕 ● 編集協力

A6・頁360  
定価:3,960円(本体3,600円+税10%) 医学書院  
ISBN978-4-260-05104-0

手元に『PT・OT・ST ポケットマニュアル』が届いた。本書は、リハビリテーションの3職種が共通して使える内容をベースとしており、常識や基礎知識はもとより、患者対応や疾患ごとの評価・治療・介入のコツまでもが容易に調べることができる内容となっている。しかも白衣などのポケットに入るサイズであり、困ったときにいつでも活用できるという特徴がある。私が作業療法士として就職したころは、そのような類の本は存在しなかったもので、勤務先の図書室に走っては数少ないジャーナルなどを読みあさったり、はたまた先輩

評者 山本 伸一

一般社団法人日本作業療法士協会会長/山梨リハビリテーション病院リハビリテーション部副部長

療法士に聞きに行ったりと、四苦八苦していたこともあり、そんな夢のような書籍があるのかと期待大でページをめくった。

順を追って理解が深まる  
若手療法士の必携マニュアル

目次構成は、I リハビリテーション・プロフェSSIONナルとしての常識、II リハビリテーション医療の基礎知識、III リハビリテーション評価の基本、IV リハビリテーション治療の基本、V 疾患ごとのリハビリテーション診療、VI 重要評価スケール、となっている。非常に読みやすい展開だ。I章では、リハビリテーション医療の考え方から療法士に求められるもの、チームの重要性、接遇や

## 【第2回】免疫

「免疫」は「疫病から免れる」としばしば簡単に解釈されているが、immunityは「公の義務から解放された」という意味のラテン語 immunis から生まれたという(木村専太郎『医者も知りたい面白医学英語事典』)。Immunis から派生した語にはcommunityやcommunismなどがある。「免疫」がimmunityの訳語として定着しておよそ130年になるが、誰がその訳語を最初に使ったかは必ずしもはっきりしない。『日本国語大辞典』では、国

木田独歩が比喩的に使ったことが紹介されている。すなわち、1908年の『病床録』に「恋せざる男女は種痘せざる人の如し……その免疫期間は極めて短し、或は全く無き人あり」と記されている。これは中国の『新華外来詞詞典』(2019)にも日本の最初の用例と示されているが、これは比喩的使用であり、本義的にはもっと早い時期だとも述べられている。

そこでGoogle Scholarで調べると、1896年に細菌学や獣医学の論文に初出し、その後多くの論文が出ているが、やはり「最初に誰が?」という謎が残る。そこで、千葉大から東大に移られていたので筆者は一度しか講義を拝聴できなかった多田富雄先生(東大名誉教授)の著書『免疫の意味論』(青土社、1993)に当たると、川喜田愛郎先生(千葉大名誉教授)が1887年の書物に記載を見つけたという記載があった。これを基にWeb上で検索すると、川喜田愛郎「特別講演:免疫学100年史」(順天堂医学、1982)に以下のように述べられている。

「『免疫』という言葉が……いつ登場したかを……東大医学部の図書館で調べたことがあるのですが、……明治23(筆者註:1890)年ごろと推定されたままで結論がえられませんでした。その後、阪大の藤野(恒三郎)名誉教授の御教示で、……ばくてりあ病理新説……の訳者矢部辰三郎という方が『免疫性』という訳語をあてておられることがわかりました。……もっともそれはすぐに定着したわけではなく、……免病質、免脱質、免除質、等いろいろの言葉が文献にみえるのですが、数年後にはimmunityの訳語としての『免疫』は動かないものとなった……」。なお、この講演の中で川喜田先生は「自己免疫病」という言葉について、「免疫」と「病」が並置されているのが無神経だと述べられており、印象的である。

## ●書籍のご注文・お問い合わせ

本紙で紹介の書籍についてのお問い合わせは、**医学書院販売・PR部**まで  
☎(03)3817-5650/FAX(03)3815-7804  
なお、ご注文につきましては、最寄りの医学書院特約店ほか医書取扱店にて承っております。

記録などの作成ポイントまでまとめられている。療法士として、そして医療人、さらには社会人としての「知っておくべきこと、その心構え」など、職員教育には欠かせない内容である。II章は、ICF、急性期・回復期・生活期のリハビリテーション、各種制度など、患者の診療にかかわる前に知っておくべきことが網羅されている。III章は、評価全般について。関節可動域、筋力・麻痺・筋緊張・協調運動・反射、上肢機能や感覚など、各種の基本的な評価のあり方が解説されている。それを理解したところで、IV章の治療というつながりとなっている。関節可動域訓練、筋力増強訓練、促通手技、基本動作訓練、移乗訓練、立位バランス訓練などなど。基本からポイント、実際場面に至るまで述べられており非常にわかりやすい。頭の中に整理されて入ってくる印象だ。そしてV章は疾患ごとの解説となっている。脳卒中、パーキンソ

ン病、認知症、脊髄損傷、骨折などの整形疾患、内部障害や難病、小児疾患まで網羅されている。疾患ごとの解説は、きっと読者の実臨床に生かされることと思う。さらに最後のVI章では、重要な評価スケールが26種類掲載されている。これらを知っておけば、おおよその疾患の評価が可能である。知っておくべき評価ツールを一覧でき、「あの評価は、どんな内容だっけ?」「どのように評価するの?」と思ったときに、さっと見ることが出来る優れものといえる。また、本書の全ての項目の冒頭には「Focus Point」が提示されており、目標として何を理解するのか、何を学ぶのが明確に示されている。本当にありがたい。

私は臨床経験が37年。この短くも長い期間、多くの療法士が臨床を積み重ねてきたことでできあがった本だと思う。若い療法士の方々に必須のポケットマニュアル。心から薦めたい。

本邦屈指のエキスパートたちによる十二指腸腫瘍内視鏡治療手技のすべて

## 十二指腸腫瘍の内視鏡治療とマネジメント

消化器内視鏡治療の最前線。十二指腸腫瘍の内視鏡治療手技のすべてを集約。第一人者たちによる、十二指腸腫瘍に対する内視鏡治療の決定版。実施可能なあらゆる手技を網羅。基本技術から、エキスパートならではのコツ、そして多彩な症例から治療手技の真髄を学ぶ。

編著 小山恒男  
矢作直久

十二指腸腫瘍の内視鏡治療とマネジメント  
本邦屈指のエキスパートによる  
十二指腸腫瘍  
内視鏡治療手技のすべて

“臨床志向”の専門医向けのテキスト。13年ぶりの大改訂!

## 専門医のための腎臓病学 第3版

高度の知識と技術が要求される腎臓専門医と、専門医を目指す医師に向けて編集されたテキストが13年ぶりに大改訂。腎臓病学を総合的に学ぶという初版以来のコンセプトを引き継ぎつつ、最新の知見を盛り込み、内容をアップデート。腎臓病診療の第一線で活躍するエキスパートが執筆者となり、昨今、臨床医学においてさらに重要性を増している「腎臓病学」を臨床的な視点に基づいて解説する。

監修 内山 聖  
富野康己  
今井裕一  
編集 柏原直樹  
金子一成  
南学正臣  
柳田素子

専門医のための  
腎臓病学  
これぞ、決定版!  
診療に役立つ「実践書」